

各機関の令和5年度の取組み 及び今後の予定について

令和6年6月17日

鈴鹿川外・雲出川外・櫛田川外・宮川外
大規模氾濫減災協議会(合同協議会)

- これまでの取組状況及び今後の取組予定…………… 1
- 令和5年度の各機関の取組…………… 8

これまでの取組状況及び今後の取組予定

① 小中学校における防災(水災害)教育の実施

- 令和元年度より、小学校にて新学習指導要領の全面実施に向け支援校に対して防災教育の支援を実施しており、今年度も引き続き実施。
- 教材（副読本）、運営用資料（卓上模型、モニタージュ写真等）の授業運営に関する支援と合わせ、**各学校が主体となり継続的に実施できるような仕組みづくりを引き続き実施。**

試行授業実施状況

河川名	学校名	H31	R2	R3	R4	R5
鈴鹿川	鈴鹿市立河曲小学校	●	—	—	—	—
	鈴鹿市立神戸小学校	—	—	●	—	—
	鈴鹿市庄野小学校	—	—	—	●	—
	鈴鹿市清和小学校	—	—	—	●	●
雲出川	津市立香良洲小学校	●	●	●	●	●
	津市立一志西小学校	—	●	●	—	—
	津市立櫛形小学校	—	—	—	●	—
	津市立芸濃小学校	—	—	—	—	●
櫛田川	松阪市立掃水小学校	●	●	—	—	—
	松阪市西黒部小学校	—	●	●	●	—
	松阪市東黒部小学校	—	—	—	●	—
	松阪市立機殿小学校	—	—	—	—	●
宮川	伊勢市立豊浜西小学校	●	●	●	—	—
	伊勢市立佐八小学校	—	●	—	—	—
	伊勢市豊浜東小学校	—	●	●	—	●
	伊勢市立御園小学校	—	●	—	—	—
	伊勢市立小俣小学校	—	—	●	●	●
	伊勢市立浜郷小学校	—	—	—	●	—



今年度の授業の様子（津市立芸濃小学校）



副読本



雲出川マイクロモデル

フォトモンタージュ

① 小中学校における防災(水災害)教育の実施

- 防災教育の支援の一環として、**ポータルサイトを作成。**
- ポータルサイトのコンテンツとして、「トピックス」、「学校教育教材」、「学習用素材」、「**教員の方へ (e-learning)**」を掲載。
- **令和5年度、デジタル副読本の更新及び紹介コンテンツの追加を追加掲載。**

ポータルサイトの構成	
コンテンツ	概要
トピックス	学校や地域において、防災教育を実施した事例、実施のきっかけや実施までの準備・流れ、使用した教材、参加者の反応などを紹介
学校教育教材	学校防災教育用に作成した副読本、学習指導・発問計画、プリントを紹介
学習用素材	学習習用のマイクロモデル（模型）、フォトモンタージュ、防災カードゲーム等の素材・リンク先を紹介
教員の方へ (e-learning)	三重県内で実施された防災教育の試行授業動画（ダイジェスト版）を掲載 ※全4時限、それぞれ2動画掲載（各2分程度）

教育関係者向け 水防災教育訴求・啓発動画



e-learning (試行授業動画 (ダイジェスト版))

<展開③④：災害理解>
水害時(堤防決壊、道路崩壊、土砂災害、宮川流域の台風被害等)の写真を見て、大雨が降るとどのような被害が出るのかを学習します。また、水害が起こる過程を、紙芝居を使って考えます。

デジタル副読本の更新 R5追加

関連ページへのリンクをQRコードで表示

関連ファイルへのリンクは、別タブで開く

紹介コンテンツの追加 R5追加

トピックスページに
令和4、5年度の事例を追加

②危機管理型水位計と簡易型河川監視カメラの設置

- 洪水時の水位観測に特化した低コストな水位計を開発することで、**水位計未設置河川や地先レベルのきめ細やかな水位把握が必要な河川への水位計の普及を促進し、水位観測網の充実を図る。**
(R6.3末時点で、三重河川国道事務所にて87基、三重県にて216基設置済み)
- 機能を限定した低コストの簡易カメラ（簡易型河川監視カメラ）を設置し、**多くの地点で河川状況を確認することで従来の水位情報だけでは伝わりにくい「切迫感」を共有し、円滑な避難を促進。**
(R6.3末時点で、三重河川国道事務所にて41基設置、三重県にて71基設置)

簡易型監視カメラの閲覧方法（川の水位情報より）

川の水位情報 2020/03/25 10:18

河川カメラ (簡易型河川監視カメラ含む)

通常水位計

危機管理型水位計

画面ではCCTVと簡易型カメラが同じ表示のため、メニューの表示切替で河川監視カメラ(簡易型)のみのチェックとすることで、簡易型河川監視カメラの設置位置が確認できます。

クリック

表示切替

- ☒ 水位計
- ☒ 危機管理型水位計
- ☐ 河川監視カメラ(CCTV)
- ☒ 河川監視カメラ(簡易型)
- ☒ 河川ライン

地図切替 国土地理院データ 選択

川の水位情報

- ・危機管理型水位計・通常水位計・**河川カメラ(簡易型河川カメラも含む)**が同一画面上に表示。
- ・**氾濫するまでの程度の余裕があるか**リアルタイムに確認。
- ・**河川カメラ(簡易型河川カメラ含む)**により、**河川の状況を画像にて確認。**

川の水位情報
<https://k.rever.go.jp/>



洪水時は事務所HP・Twitterでも防災情報を発信しています
HP : <https://www.cbr.mlit.go.jp/mie/>
Twitter : https://twitter.com/mlit_mie

③氾濫危険水位・避難判断水位の見直し

氾濫危険水位・避難判断水位の見直しの経緯

- 「避難勧告等の判断・伝達マニュアル作成ガイドライン」（内閣府平成26年9月）での主な改訂内容の一つとして、**遅くとも避難完了するタイミングの基本とする水位**がHWLから堤防天端に変更された。
- しかし三重四川の警戒レベル4 避難指示の基準水位である「氾濫危険水位」は、最新の**国が定めるガイドライン（※内閣府「避難情報に関するガイドライン」）**に沿って設定されていない。これは、当時の議論においてそのように判断されたためである。
- 具体には、「**氾濫危険水位**」がガイドラインが定める水位よりも**低く設定されている**ため、ガイドラインが定めるタイミングよりも**早いタイミングで警戒レベル4 避難指示を発令**する基準に達することとなり、自ずと、ガイドラインに沿った場合よりも**高い頻度で警戒レベル4 避難指示を発令**する水位に達することとなる。
- このように警戒レベル4 避難指示を発令するタイミングが早ければ、ガイドラインで想定しているよりも長く避難時間を確保できるが、一方で、「氾濫危険水位」が低く堤防天端までの距離が長ければその分、「氾濫危険水位」に達したもののその後想定されたよりも水位が上がらず越水・溢水をしないことも多くなる。つまり、
 - ・ **警戒レベル4 避難指示を発令したのに実際には災害が発生しないという「空振り」が多く起こり、**
 - ・ **空振りが多くなれば避難情報の「信憑性」が損なわれ避難行動につながりにくくなる**恐れもある。
- また、前回三重四川で「氾濫危険水位」の見直しを検討して以降、以下のような動きがある。
 - ・ 避難勧告と避難指示を避難指示に一本化
 - ・ 防災情報の住民等への提供が多様化・迅速化
 - ・ 水系・流域が一体となった洪水予測を検討中（洪水予測の精度向上が期待）

このため、今回「氾濫危険水位」「避難判断水位」を見直すことを検討

※「氾濫危険水位」見直しにあたっては、これまでと同様、水防活動に一義的な責任を有する市町長の意見や必要に応じ有識者の意見を伺った上で慎重に検討・判断する。

③ 氾濫危険水位・避難判断水位の見直し

氾濫危険水位・避難判断水位の見直し（案） 【参考：全観測所】

水系名	河川名	観測所	現行		見直し案		現行		見直し案		備考 () はリードタイム
			氾濫危険水位 Lv4	危険箇所検討用 リードタイム Lv4～Lv5	氾濫危険水位 Lv4	見直し リードタイム Lv4～Lv5	避難判断水位 Lv3	危険箇所検討用 リードタイム Lv3～Lv4	避難判断水位 Lv3	見直し リードタイム Lv3～Lv4	
鈴鹿川	鈴鹿川	亀山	4.4	1.0	4.4	1.0	3.4	2.0	3.6	2.0	個別対応区域の設定が必要 Lv4：3.7 (1.0) Lv3：3.4 (0.75)
	鈴鹿川・鈴鹿川派川	高岡	4.4	2.0	4.8	※1.0	3.6	1.5	3.9	1.5	
	内部川	河原田	2.5	1.5	3.1	※1.0	1.9	1.0	2.4	1.0	
	安楽川	川崎	1.7	1.0	1.8	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	+10cm以下のため、値は見直さない
雲出川	雲出川	大仰	5.1	0.5	5.3	↑ 1.0	4.8	0.5	4.8	0.5	
	雲出川・雲出古川	雲出橋	5.4	1.0	6.4	1.0	5.0	1.0	5.9	1.0	
	波瀬川	下川原橋	3.4	0.5	3.5	0.5	2.2	0.5	2.6	0.5	+10cm以下のため、値は見直さない
	中村川	島田橋	2.8	0.5	3.3	↑ 1.0	2.5	0.5	2.8	0.5	個別対応区域の設定が必要 Lv4：2.9 (1.0) Lv3：-
櫛田川	櫛田川	両郡	6.7	1.0	7.0	1.0	5.8	2.0	6.0	2.0	
		櫛田橋	5.1	1.0	6.8	1.0	4.7	1.0	6.3	1.0	
	佐奈川	西山橋	3.2	0.5	3.2	0.5	2.7	0.5	↓2.6 ※10cmの差のため変更なしとする	0.5	～10cmの差のため、値は見直さないが 個別対応区域の設定が必要 Lv4：2.4 (0.3) Lv3：2.0 (0.3)
宮川	宮川	岩出	8.2	1.0	9.9	1.0	7.2	1.0	8.9	1.0	
	勢田川	岡本	3.4	0.5	3.5	↑ 1.0	3.2	0.5	3.3 ※10cmの差のため変更なしとする	0.5	+10cmの差のため、値は見直さない

見直しリードタイムの↑は、危険箇所検討用リードタイム（過年度に市町への意見照会をふまえて設定した値）との比較
※ Lv4～Lv5のリードタイムは原則 1 時間とするが、（堤防高-リードタイム分の上昇量）>HWLで、HWLで危険水位が決まっている場合は、実態として従来どおりのリードタイムは確保できる。

④水防災業務支援システムについて

- 風水害体制時の情報収集・伝達時において、以下のような「不便さ」があると推察される。
 - ・ 自市町に関わる監視先が一元化されておらず、閲覧が手間
(例：川の防災情報…観測所ごとにタブを切り替える必要)
 - ・ 洪水予報や川の防災情報では、観測所ごとの水位状況を一目で把握しにくい
(警戒レベルはわかるが、「予測」による情報なのか「実測」による情報なのか)
 - ・ ホットライン等の「電話」では、事務所が「今」見ている情報をイメージしにくい
(一斉に伝達できないのでタイムラグが発生する可能性もある)
- 「三重河川国道事務所 水防災業務支援システム」により、事務所で監視している気象・河川情報サイトの一部を各自治体にも公開にし、「同じ画面」で「同じ情報」を「リアルタイム」に共有可能となり、不便さの解消に繋がる。

▼三重河川国道事務所管理区間の監視情報一元化サイト

三重河川国道事務所

県・自治体版

水防災

Flood Response Support System

業務支援システム

三重河川国道事務所水防災業務支援システムは、鈴鹿川水系・雲出川水系・櫛田川水系・宮川水系の流域監視、出水状況の把握等を効率的に実施するための支援システムです。

搭載機能

マルチ画面	流域俯瞰図	水位一覧	動く管内図
危険箇所ランキング	ホットライン	水位グラフ	CCTV表示

水防災業務支援システムへのログインはこちら

④水防災業務支援システムについて

■ 出水時における災害対応の効率化・省力化を目的として事務所内で活用している「水防災業務支援システム」の一部機能について、関係機関と「同じ画面にて情報共有し、状況や危機感の共有をしやすくする」ため、外部からもアクセス・閲覧できるよう環境整備を実施。本年度より、試験運用を開始予定。

三重河川国道事務所

県・自治体版

水防災業務支援システム

マルチ画面

流域俯瞰図

水位一覧

メニュー

水位一覧

危険箇所ランキング

水系

基準観測所

表示項目

水位

時刻

60分

現在時刻

ピーク水位とは

水位一覧

河川名	鈴鹿川		内部川	安楽川	雲出川	
観測所名	亀山	高岡	河原田	川崎	大柳	雲出橋
詳細	🔗	🔗	🔗	🔗	🔗	🔗
氾濫する可能性のある水位	4.17m	6.27m	4.36m	2.79m	5.92m	7.65m
計画高水位	5.80m	7.25m	4.17m	5.64m	6.16m	6.74m
氾濫危険水位	4.40m	4.40m	2.50m	1.70m	5.10m	5.40m
避難判断水位	3.40m	3.60m	1.90m	1.00m	4.80m	5.00m
出動水位	3.40m	3.60m			4.00m	
氾濫注意水位	3.40m				3.70m	
水防団待機水位	2.70m				3.00m	
ピーク水位	3.34m				3.99m	
ピーク時刻	2023-04-24 14:10				2023-04-24 14:30	
2023/04/24 14:30	3.30m ↑	2.36m ↑	2.00m ↑	0.81m ↑	5.81m ↑	4.22m ↑
2023/04/24 14:40	3.32m ↑	2.36m ↑	2.00m ↑	0.81m ↑	5.81m ↑	4.22m ↑
2023/04/24 14:50	予 3.36m ↑	予 2.53m ↑	予 1.03m ↑	予 0.90m ↑	予 6.14m ↑	予 4.39m ↑
2023/04/24 15:00	予 3.39m ↑	予 2.59m ↑	予 1.05m ↑	予 0.99m ↑	予 5.95m ↓	予 4.62m ↑
2023/04/24 15:10	予 3.32m ↓	予 2.63m ↑	予 1.09m ↑	予 1.06m ↑	予 5.82m ↓	予 4.91m ↑
2023/04/24 15:20	予 3.36m ↑	予 2.71m ↑	予 1.26m ↑	予 1.19m ↑	予 5.81m ↓	予 5.08m ↑
2023/04/24 15:30	予 3.39m ↑	予 2.80m ↑	予 1.32m ↑	予 1.29m ↑	予 5.80m ↓	予 5.25m ↑
2023/04/24 15:40	予 3.41m ↑	予 2.88m ↑	予 1.36m ↑	予 1.36m ↑	予 5.74m ↓	予 5.42m ↑

実測・予測水位 (値) を一画面で閲覧できる

【水位グラフ】 2023/04/24 14:40 観測水位: 3.32m

実測・予測水位 (グラフ) を一つの画面で閲覧できる

鈴鹿川: 亀山

鈴鹿川: 高岡

氾濫する可能性のある水位 (3時間予測水位で警戒レベル4相当)

計画高水位

氾濫危険水位 (3時間予測水位で警戒レベル3相当 / 警戒レベル4相当)

避難判断水位 (警戒レベル3相当)

出動水位

氾濫注意水位 (警戒レベル2相当)

水防団待機水位

水防団待機水位未満

観測所名

現在水位 (m)

1時間予測水位 (m)

3時間予測水位 (m)

異常洪水時防災操作開始水位

洪水貯留操作開始流量

ダム名

貯水位 (m)

貯水量 (m³)

全流入量 (m³/s)

全放出量 (m³/s)

河原田

1.03 ↑

1.44 ↑

2.09 ↑

高岡

2.53 ↑

2.92 ↑

3.44 ↑

川崎

0.90 ↑

1.43 ↑

1.43 ↓

亀山

2.36 ↑

2.36 ↑

2.36 ↑

現在・1時間後・3時間後の水位が一目でわかる

- その他の機能（一部抜粋）
 - ・ 地域全体（中小河川含む）の出水状況の監視（洪水キキクル）と、直轄観測所の水位予測で、水位上昇状況を監視可能
 - ・ 気象・水位・CCTV等を1つの画面で閲覧可能
 - ・ 流域俯瞰図上で、雨量・水位・ダム情報を全域俯瞰して閲覧可能
- 等
- 8

令和5年度の各機関の取組

令和5年度の各機関の取組項目

【重点項目】

- ①水害リスクの空白域の解消
- ②持続的な水災害教育の実施と伝承
- ③実効性のある要配慮者施設の避難確保計画の作成促進と避難訓練の実施
- ④その他減災に係る取組方針の項目

【主な取組項目】

- ①迅速な避難と被害の最小化に向けた地域住民の防災意識向上のための取組
- ②逃げ遅れゼロに向けた迅速かつ的確な避難行動のための取組
- ③氾濫による被害の軽減のための迅速かつ的確な水防活動・排水活動の取組
- ④河川管理者等が実施する防災施設の整備・被害現象のための対策
- ⑤土砂災害に対する警戒避難体制を充実・強化するための取組
- ⑥避難行動の確実化に向けた迅速かつ的確な情報提供を行うための取組

「水防災意識社会再構築ビジョン」に基づく〇〇河川の減災に係る取組方針より

令和5年度の各機関の取組 各機関総目次

機関名	概 要	取扱項目	ページ
鈴鹿市	鈴鹿市総合防災マップの作成	①	11
	学校や地域等で防災講話や防災・避難訓練等を実施(令和5年度計26回)	②	
亀山市	風水害ハザードマップのデータ更新、製本印刷	①	12
	宅地開発等の個別対応	①	
	説明会の実施	①	
	要配慮者利用施設での避難訓練の実施	②	
	準用河川竜川において除草、浚渫などの河川清掃を実施	④	
川越町	体験型防災訓練の実施	②	13
	ハザードマップの更新・配布	①	
朝日町	防災講話、防災倉庫見学を実施	②	14
	仕団に出前講座を実施	②	
	企業等と連携した避難体制等の確保	④	
津市	内水浸水想定区域図の作成・公表	①	15
	高潮ハザードマップの作成	①	
	浸水センサの設置	④	
松阪市	洪水・内水ハザードマップの作成	①	16
多気町	防災訓練の開催・防災教室での啓発	②	17
	準用河川外城田川の整備	④	
伊勢市	防災マップの更新	①	18
	防災教育の実施	④	
明和町	祓川・中川ハザードマップ作成・周知	①	19
玉城町	防災教育の支援実施	②	20
	要配慮者施設での避難訓練の実施	③	
	避難誘導訓練やAED講習会の実施	③	
大台町	防災・行政情報配信システム整備事業	①	21
	災害からライフラインを守る事前伐採事業	④	
度会町	情報配信ツールの整備	①	22
	ドローン活用による被害情報の取得	①	
南伊勢町	中学校防災教育の支援	②	23
	地域防災教育の支援	②	
三重県 施設災害対策課	市町担当者向け勉強会の実施	③	25
四日市建設事務所	水位状況を確認するための簡易型河川監視カメラの設置:鎌谷	④	26
	治水安全度を向上させるためのハード対策:三滝川、朝明川	④	
津建設事務所	市道江戸橋の整備(河道拡幅)	④	27
津地方气象台	防災気象情報の利活用について説明会を実施	①	28
	気象情報の改善	②	
蓮ダム	流域住民に防災訓練の講演を実施	①	29
	流域の小・中学校で防災教育を実施	②	
中部電力	水道自動検針を活用した浸水エリア推定	④	30

【水害リスクの空白域の解消】

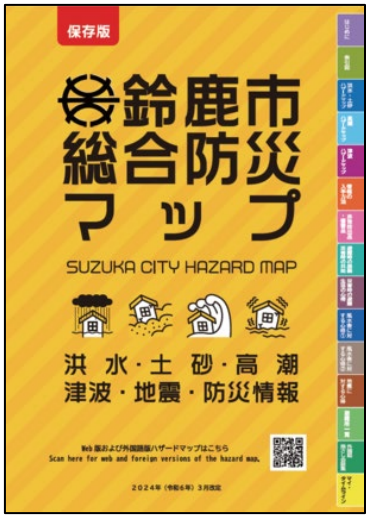
・迅速な避難と被害の最小化に向けた地域住民の防災意識向上のための取組

【持続的な水災害教育の実施と伝承】

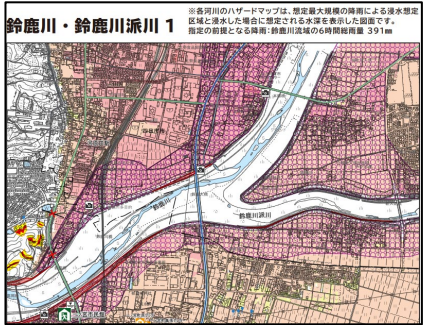
・迅速な避難と被害の最小化に向けた地域住民の防災意識向上のための取組

【鈴鹿市総合防災マップの作成】

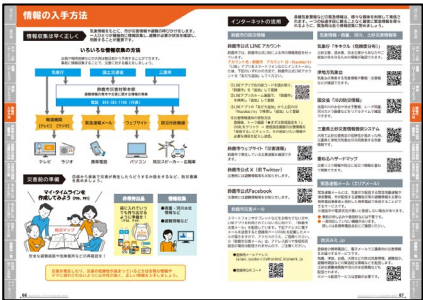
・H30年3月に発行した鈴鹿市防災マップを改定し、新たに鈴鹿市総合防災マップを発行しました。



表紙



ハザードマップ



学習面

学校や地域等で防災講話や防災・避難訓練等を実施(令和5年度計26回)】

学校や地域等で風水害に関する防災講話・防災訓練等を26回実施。
(全体では102回実施)



【水害リスク情報の空白域の解消】

- ・土砂災害に対する警戒避難体制を充実・強化するための取組

【実効性のある要配慮者施設の避難確保計画の作成促進と避難訓練の実施】

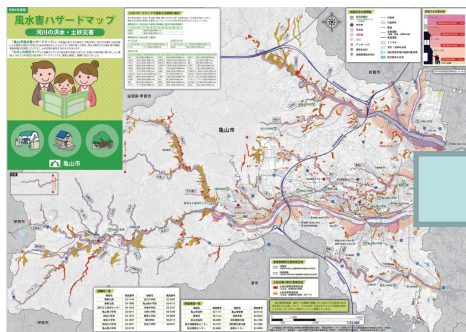
- ・迅速な避難と被害の最小化に向けた地域住民の防災意識向上のための取組

【その他減災に係る取組方針の項目】

- ・河川管理者等が実施する防災施設の整備・被害現象のための対策

【水害リスク情報の空白域の解消】

- ・風水害ハザードマップのデータ更新を行い、製本印刷を行いました。
- ・宅地開発等に対し個別に相談対応しています。【継続】



宅地開発等の 個別対応



- ・新たに土砂災害警戒区域に指定された区域の自治会を対象に説明会を実施しました。

【持続的な水災害教育の実施と伝承】

- ・要配慮者利用施設に対して、訓練実施促進を行い、避難訓練を実施しました。【継続】



【その他減災に係る取組方針の項目】

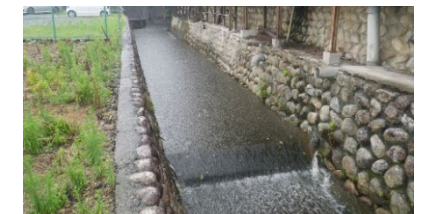
(河道掘削の実施)

- ・市街地における内水氾濫を防止するため、準用河川竜川において除草、浚渫などの河川清掃を実施。

■施工前



■施工後



【持続的な水災害教育の実施と伝承】

・迅速な避難と被害の最小化に向けた地域住民の防災意識向上のための取組

【水害リスクの空白域の解消】

・迅速な避難と被害の最小化に向けた地域住民の防災意識向上のための取組

体験型防災訓練の実施】

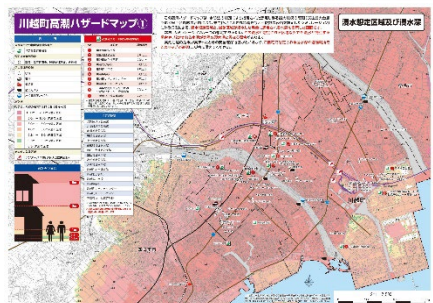
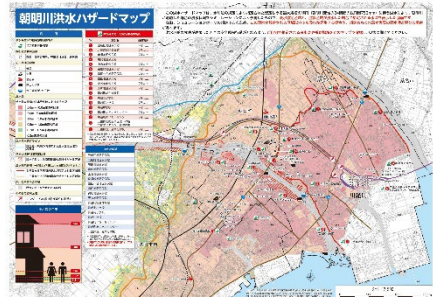
町内の小学生とその保護者を対象に、自助・共助の必要性を理解してもらうとともに、避難所の自主運営の円滑化など目的として、体験型の防災訓練を実施。



【ハザードマップの更新・配布】

更新したハザードマップを令和5年度に町内全戸へ配布。

令和6年度については、ハザードマップを活用した防災講習会などを実施する予定。



【持続的な水災害教育の実施と伝承】

- ・迅速な避難と被害の最小化に向けた地域住民の防災意識向上のための取組

【その他減災に係る取組方針の項目】

- ・企業等と連携した避難体制等の確保

【持続的な水災害教育の実施と伝承（防災教育の支援）】

4年生)において防災講話、防災倉庫見学を実施

【小学校への講話の様子】



【日赤地域奉仕団への講座の様子】



【企業等と連携した避難体制等の確保】

- ・災害が発生した場合の住民等の安全確保のため、日本トランスシティ株式会社が所有する「三重朝日物流センター事務所棟」を避難施設として利用することができる「災害時における施設利用に関する支援協定」を締結。

【締結式の様子】



【避難施設「事務所棟」】



【水害リスク情報の空白域の解消】

- ・迅速な避難と被害の最小化に向けた地域住民の防災意識向上のための取組

【その他減災に係る取組方針の項目】

- ・氾濫による被害の軽減のための迅速かつ的確な水防活動・排水活動の取組

内水浸水想定区域図の作成・公表

津市雨水管理総合計画の重点対策地区のうち、下記区域について、内水浸水想定区域図(雨水出水浸水想定区域図)を作成・公表(令和6年3月31日)

令和5年度作成範囲

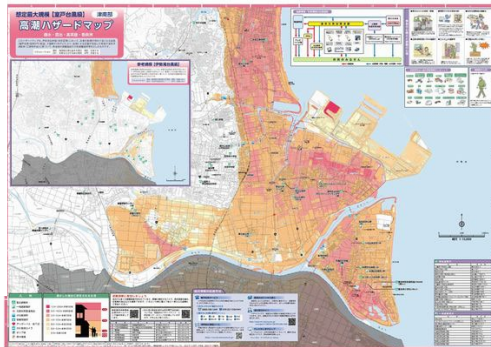
津市雨水管理総合計画の重点対策地区とその徳に隣接する排水区を含む区域

対象区域

- ①(津)大里・(河芸)上野、豊津
- ②白塚、栗真、一身田
- ③敬和、養正、修成、育生、神戸、新町
- ④誠之、戸木、成美、立成、桃園
- ⑤香良洲
- ⑥一志

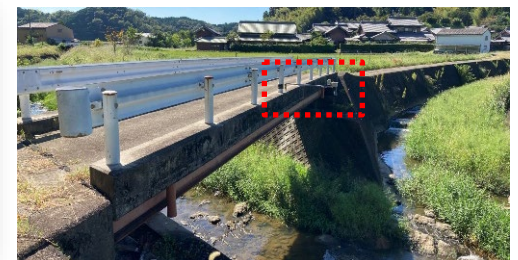
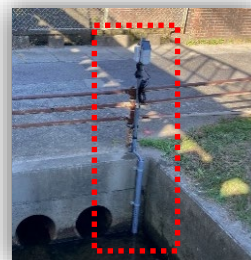
【高潮ハザードマップの作成】

三重県指定の高潮浸水想定区域図をもとに、津市沿岸部を北部、中北部、中南部、南部の4区域にわけ、高潮ハザードマップを作成。令和6年4月には雲出川流域を含む対象区域に各戸配布を実施。



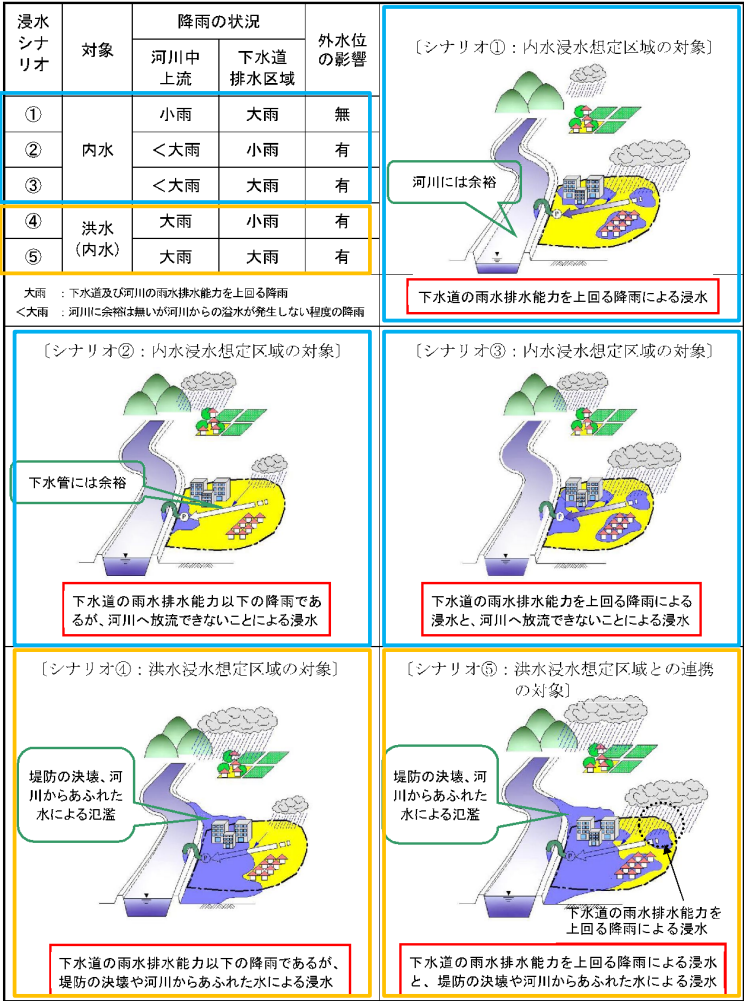
【浸水センサの設置】

- ・令和5年度より、ワンコイン浸水センサ実証実験に参加。雲出川中流部に15個の浸水センサを設置済。
- ・また、実証実験として、2か所に自動販売機搭載型浸水センサを設置
- ・ZTV(株)からの提案により、穴倉川等2か所へ水位センサ、冠水センサを設置



5年度重点項目の取組み:【水害リスク情報の空白域の解消】

降雨の状況と浸水発生シナリオ



【洪水と内水ハザードマップについて】

- ・洪水ハザードマップは、④と⑤のシナリオによる浸水想定区域図から作成したもの。
- ・内水ハザードマップは、①～③のシナリオによる浸水想定区域図から作成したもの。

～現状～

- ・洪水ハザードマップは作成済み。
- ・内水ハザードマップは未作成。



～これから～

- ・令和2年度から5年度までに作成した内水浸水想定区域図の公表と内水ハザードマップを作成し公表していきます。



- ・水害リスク情報の空白地域の解消へ
- ・防災学習や災害時の緊急避難への活用など

【持続的な水災害教育の実施と伝承】

・迅速な避難と被害の最小化に向けた地域住民の防災意識向上のための取組

【その他減災に係る取組方針の項目】

・河川管理者等が実施する防災施設の整備・被害現象のための対策

防災訓練の開催・防災教室での啓発

防災訓練や防災教室を通じて、災害への意識向上を図る。



防災訓練での排水ポンプ車の展示の様子



防災訓練での浸水体感VR体験の様子



今年度実施した防災教室の様子



避難所キャンプでのワンタッチテント設置の様子

【準用河川外城田川の整備】

継続して土砂浚渫等を実施することにより被害の軽減を図る。

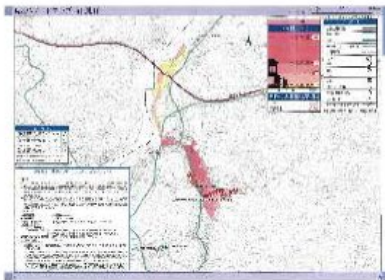
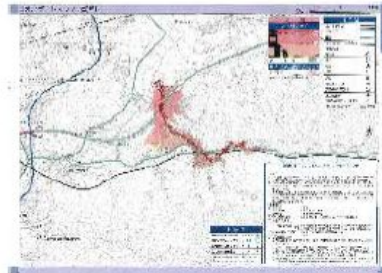


【水害リスクの空白域の解消】

【その他減災に係る取組方針の項目】

【防災マップの更新】

○県管理河川(朝川、朝川支川、朝熊川、雨湊川)の洪水浸水想定図の公表に伴い、ハザードマップを作成



【その他減災に係る取り組み方針】

○防災教育

まちづくり協議会が小学生対し、「クロスロードゲーム」による防災授業を実施。

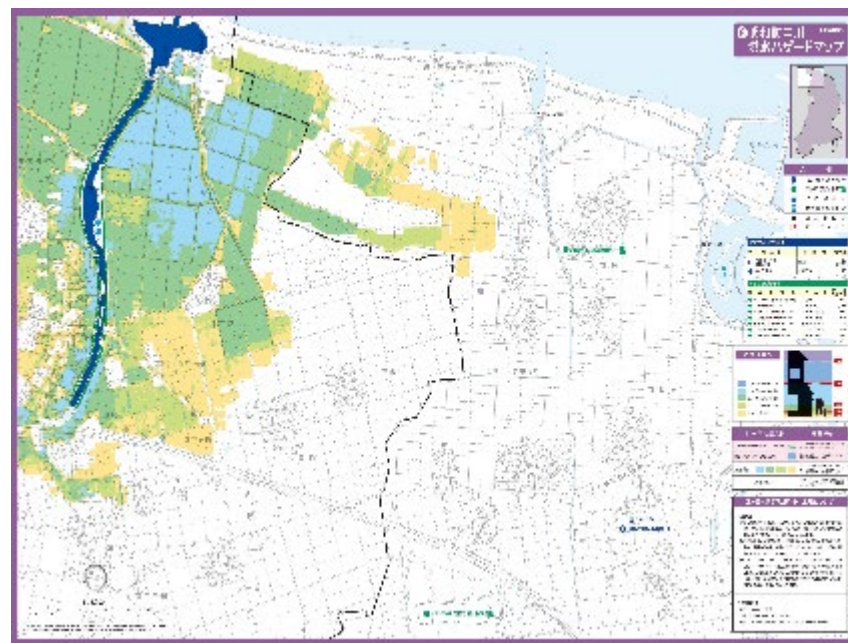
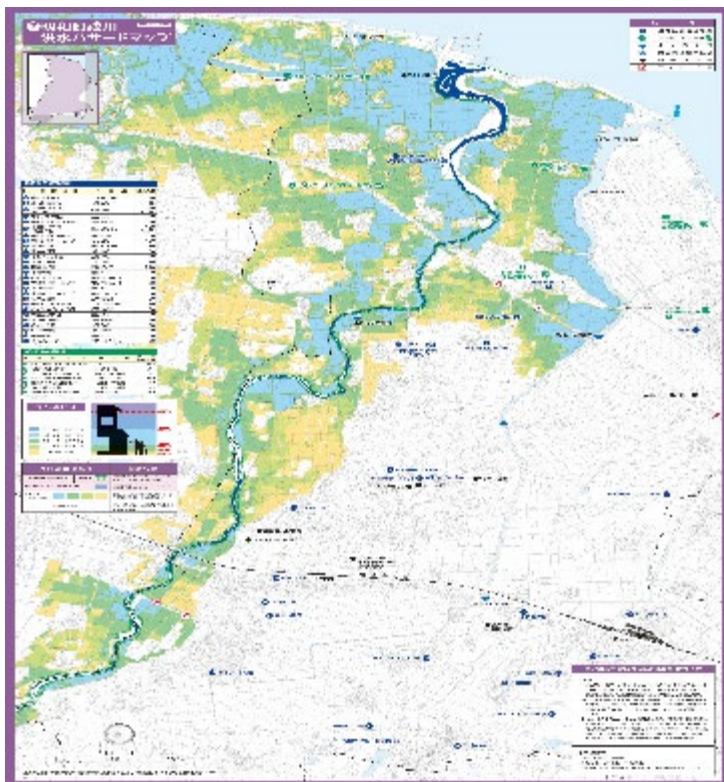


【水害リスクの空白域の解消】

祓川・中川ハザードマップ作成・周知

◎令和5年度に祓川・中川ハザードマップ作成し、全戸配布を実施。

◎全戸配布の際に防災啓発チラシを作成し、同封。



【持続的な水災害教育の実施と伝承】

- ・迅速な避難と被害の最小化に向けた地域住民の防災意識向上のための取組

【実効性のある要配慮者施設の避難確保計画の作成促進と避難訓練の実施】

- ・逃げ遅れゼロに向けた迅速かつ的確な避難行動のための取組

【持続的な水災害教育の実施と伝承】

- ・4小学校及び中学校にて防災教育の支援を実施。
- ・自治会長、自主防災組織代表者を対象とした水害に関する視察研修を実施。



防災教育



防災教育



防災教育



視察研修

【実効性のある要配慮者施設の避難確保計画の作成促進と避難訓練の実施】

- ・令和5年度においては、要配慮者施設（玉城病院・ケアハイツ玉城）で避難訓練を実施。
- ・避難誘導訓練やAED講習会を実施。



被害の軽減、早期復旧・復興のための対策】

➤ 防災・行政情報配信システム整備事業

行政からの情報(防災情報やくらしの情報など)を個人のスマートフォンなどに配信するシステム(スマホアプリ)を整備し、令和4年度から本格的に運用を開始しました。

◆ダウンロード率: 19. 9%

(R6.3.31現在)前期比2. 3%増

多くの町民に利用していただくよう、引き続き、会議の場や健康相談の場、各種イベントなどで普及啓発を行っています。



➤ 災害からライフラインを守る事前伐採事業

台風などの倒木が原因の電線寸断による長期の停電を防ぐため、三重県及び中部電力パワーグリッド(株)と連携し、電線を寸断する恐れのある樹木を事前に伐採しました。

伐採前



伐採中



伐採後



【水害リスクの空白域の解消】

避難行動の確実化に向けた迅速かつ的確な情報提供を行うための取組

水害リスクの空白域の解消(情報配信の強化)】

情報配信ツールの整備

・行政情報(防災・くらしの情報など)を個人スマホで確認できるアプリの機能を追加。トップ画面のアイコンから気象情報、警報、ハザードマップ等の情報を取得できるよう改修。

利用者拡大に向け、各種イベントでの啓発や消防団員等行政関係者への登録依頼・利用促進など、継続的に啓発・普及。



トップメニュー



お知らせ

◆ダウンロード率:17.8%(R6年2月末現在)

【水害リスクの空白域の解消(ドローン活用による情報取得)】

ドローン活用による被害情報の取得

孤立集落や浸水区域など水害リスクの空白域に陥る可能性のある箇所の情報をドローンにより取得し、迅速かつ的確な情報提供により、確実な避難行動を促す。



河川の氾濫実績のある浸水区域において、ドローンによる情報収集訓練を実施。

【持続的な水災害教育の実施と伝承】

- ・迅速な避難と被害の最小化に向けた地域住民の防災意識向上のための取組

【施策② 持続的な水災害教育の実施と伝承】

陸上自衛隊と地元消防団の協力により地域貢献や防災学習の一環として、南島中学校全生徒で土のう作りを体験した。作った土のうは、希望の地区に配布し 水害に備えた。



○地域防災教育の支援

区民と地元消防団、陸上自衛隊の協力により、土のうづくりと土のう積み訓練を行った。河川の氾濫や台風等による災害から身を守るための行動ができる人材を育成し、災害による被害防止のために備えることができた。



【実効性のある要配慮者施設の避難確保計画の作成促進と避難訓練の実施】

・迅速な避難と被害の最小化に向けた地域住民の防災意識向上のための取組

避難確保計画策定及び避難訓練実施の促進】

- ・防災部局が社会福祉施設の管理者を対象に開催している説明会に参加し、水防法、土砂災害防止法に基づく避難確保計画及び訓練の重要性等を説明。
- ・市町担当者に対しても避難確保計画の説明を行うとともに、意見交換会を実施。

施設管理者への説明



市町担当者への説明・意見交換



【その他減災に係る取組方針の項目】

- ・氾濫による被害の軽減のための迅速かつ的確な水防活動・排水活動の取組
- ・河川管理者等が実施する防災施設の整備・被害現象のための対策

【水位状況を確認するための簡易型河川監視カメラの設置：鎌谷川】

- ・令和5年度においては、鎌谷川にて簡易型河川監視カメラを1箇所設置。
- ・四日市建設事務所が所管する簡易型河川監視カメラは、合計9箇所に設置（設置河川：朝明川、海蔵川、三滝川、天白川、鹿化川、鎌谷川）。



簡易型河川監視カメラ



簡易型河川簡易カメラからの映像



設置箇所

【出典：川の水位情報HPより】

治水安全度を向上させるためのハード

- ・河川整備計画規模の洪水に対する計画的な治水対策として、二級河川三滝川において低水護岸、朝明川においては堤防嵩上げ等を引き続き実施。

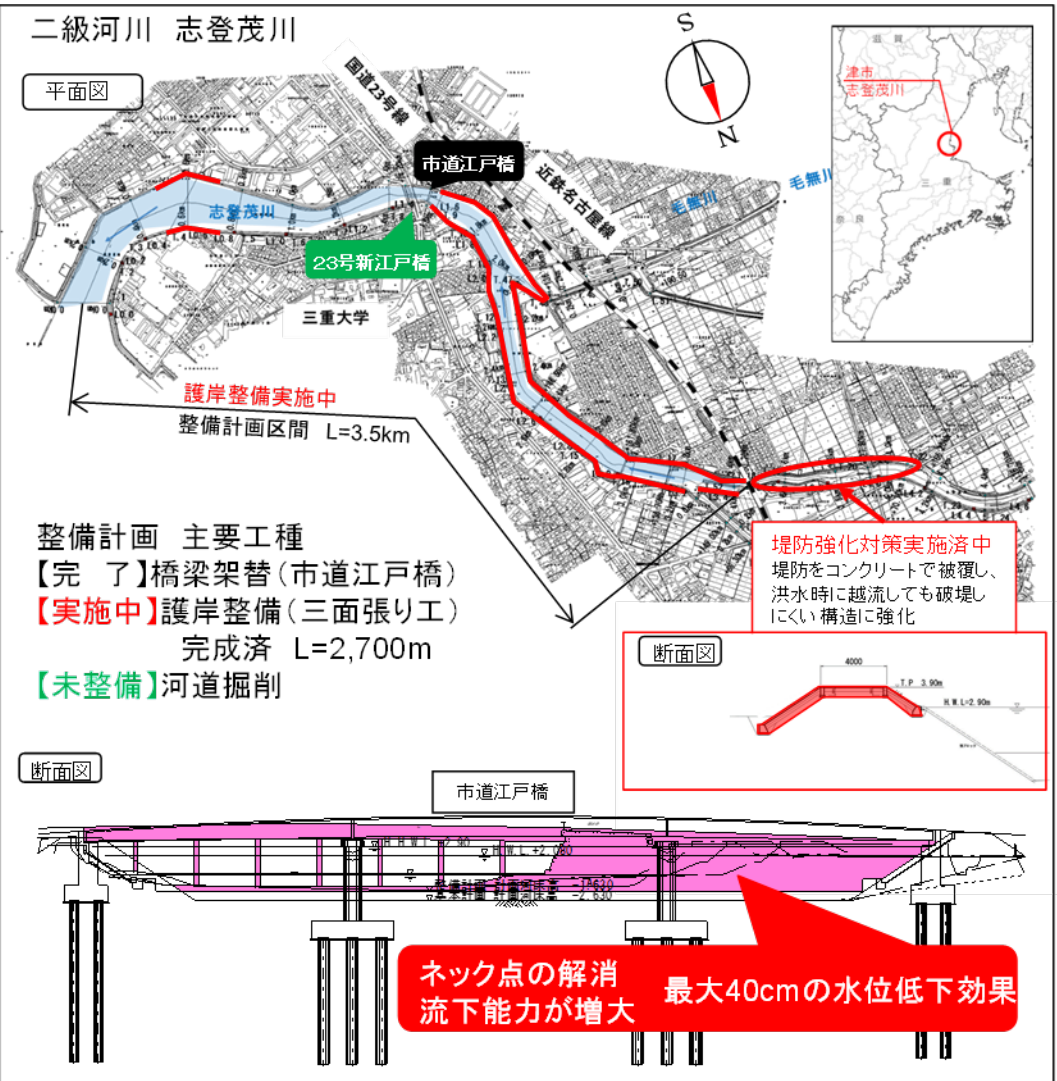
【二級河川三滝川】



【二級河川朝明川】



その他減災に係る取組方針の項目】



【今後の予定 整備計画】

護岸整備(かさ上げ)完了後、河道掘削を行うことにより流下能力の向上を図る。

- ・護岸整備 L=800m
- ・河道掘削 V=24万㎡

27

【実効性のある要配慮者施設の避難確保計画の作成促進と避難訓練の実施】

- ・迅速な避難と被害の最小化に向けた地域住民の防災意識向上のための取組

【その他減災に係る取組方針の項目】

- ・逃げ遅れゼロに向けた迅速かつ的確な避難行動のための取組

【迅速な避難と被害の最小化に向けた地域住民の防災意識向上のための取組】

- ・三重県単位民生委員児童委員協議会において、防災気象情報の利活用について説明会を実施した。
- ・みえ防災・減災センター主催の社会福祉等の避難対策促進研修会において、防災気象情報の利活用についての説明会及びDIGワークショップのサポートを行った。



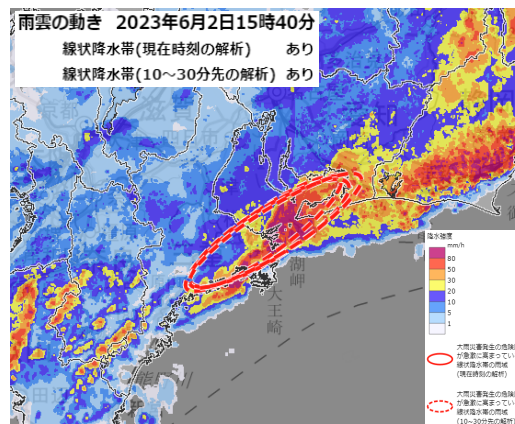
三重県単位民生委員児童委員協議会
における説明会の様子



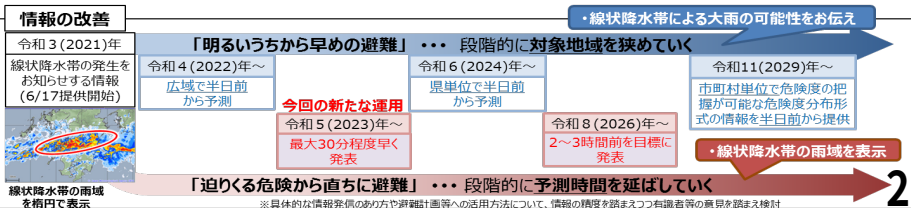
DIGワークショップの様子

逃げ遅れゼロに向けた迅速かつ的確な避難行動のための取組】

- ・令和3年度から「顕著な大雨に関する気象情報」を用いて、線状降水帯発生のお知らせをしていました。この情報は、発表基準を実況で満たした場合に発表することになっておりましたが、令和5年度より、線状降水帯による大雨の危機感を少しでも早く伝えるため、予測技術を活用し、最大30分程度前倒して発表することになりました。



顕著な大雨に関する三重県気象情報 第1号
令和5年6月2日15時40分
津地方気象台発表
(見出し) 三重県南部では、線状降水帯による非常に激しい雨が同じ場所で降り続いています。命に危険が及ぶ土砂災害や洪水による災害発生の危険度が急激に高まっています。



【迅速な避難と被害の最小化に向けた地域住民の防災意識向上のための取組】

- 管内の地区防災訓練や地区地域集会に参加し、浸水想定区域図や蓮ダム緊急放流の仕組み等を説明。



流域住民に防災訓練の講演を実施

【持続的な水災害教育の実施と伝承（防災教育の支援）】

- 中学校・小学校それぞれ1校にて、地域のまちづくり協議会が実施する防災教育に参加し、洪水に関する説明を実施。
- 引き続き、地域と連携して防災教育を実施する予定。



流域の小学校で防災教育を実施



流域の中学校で防災教育を実施

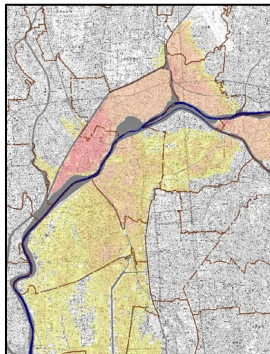
【その他減災に係る取組方針の項目】

・氾濫による被害の軽減のための迅速かつ的確な水防活動・排水活動の取組

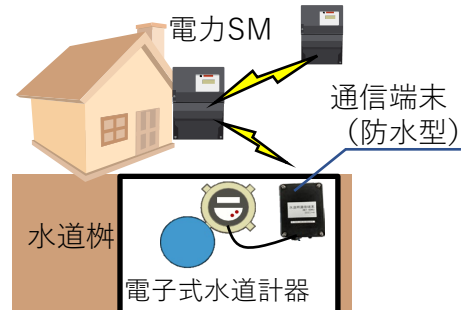
水道自動検針を活用した浸水エリア推定】（情報提供）

■ 自動検針（業務の効率化等）＋ 浸水エリア把握（防災対策等）を1石2鳥で実施

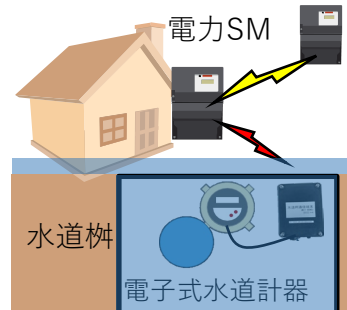
（1）ハザードマップの被害想定エリアに電カスマートメーター（電カSM）を活用した水道自動検針を導入



■ 通常時は自動検針を実施



電カSM
通信端末（防水型）
水道桝
電子式水道計器



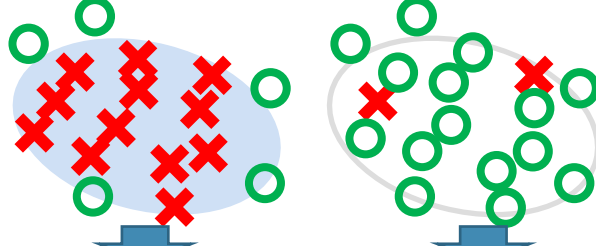
■ 災害時は浸水を把握

通信影響等を判断して
その場所の浸水「可能性」
を判定

電池消耗の小さい近距離通信
であるため、浸水可能性を
頻繁に確認・取得できる

電カSM
通信端末（非防水型）
水道桝
電子式水道計器

（2）マッピング（地図上のプロット）により浸水エリアを推定

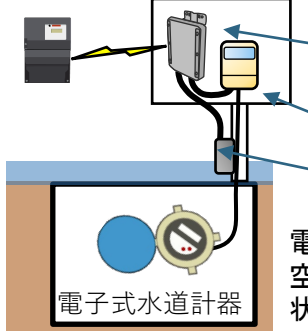


○：浸水なし
×：浸水可能性

広域的な浸水被害と判断

個々に水道桝が水没（水はけが悪い場所）と判断

（補足）自動検針用の通信端末を活用し、浸水センサーの設置も可能



通信端末（非防水型）
隔測表示器（既設）
浸水センサ

電子式水道計器

電子式水道計器で使用する端子とは異なる
空き端子に浸水センサーを接続し、ON/OFF
状態を監視することで浸水を検知